れました。 協会から「阿南市の先覚者 めに、平成2年阿南市文化 たち第1・2集」が刊行さ 阿南市の発展に尽力され 郷土の偉人を紹介するた

掲載して紹介します 後世に語り継ぐために、27 た人たちの偉業を顕彰し、 人の先覚者たちを奇数月に

(書道家・画家)

れる。 とりわけ書は幕末の三筆と称されて 1778年、 江戸時代後期の文人画家で、 現徳島市弓町に生ま

現那賀川町の高橋赤水には儒学を学 書は文化人の西宣行に学んだ。 幼少のころより絵の才能に優れ、 菘翁は十代中頃に、黒津地町の松 菘翁が大成する基となった。 また

る。

町の朱色の赤門で有名な光明寺に居 原が美しい風土や海を好み、 に優れた作品を残している。 研究に没頭できる絶好の場所であっ 「廬山之記」である。 菘翁は書画の鍛錬に励み、 閑静な場所にあるため、 書画の 黒津地 として

> 其像備中第三蘇輕易後人正所下往也太少公東正餐月好而且觀面於五明北望几江東西冰月山顧下及動獨在此雲則條於而真我大風損為經營動谷群 惟發奏其能縣人此作在不可用有 若全天庭馬其殿下半五沒有臣出上日息在日光一所馬也其後有片漢重本道程行度下常力 記官嚴切所嚴成给故時人教之所以為神山之意而名馬其山大扇免有七毛到俸有臣指父生者出日殷出之際歷世陽時帶居其下我之清受道仁 而據其倉山海縣的產位出三天等都入江彭澤面一四天等草彭澤也山在其花故意 里風南之所独江山之时等若嚴不守行致 此在江州得信南南河守亭比對及在北江丁南南小江山去小江三十里徐在該公本指方面通川引五江 在川里林青沒有也所提出為一所提出有石門其前門是網群之干縣仍而緣布便為其中為於是 第每此山守我人张西往天将山町有白就光将而提 山之意而名馬其山大衛犯有七重圖差問回去五百 远遇其旅遊

品は阿南市の文化財に指定されてい 菘翁の傑作といえる。なお、この作 体を通し調和された作品で、 美しさと迫力に圧倒される字形が全 光明寺に送られたもので、この書は 品である。少年期にお世話になった き写したもので、菘翁4歳の頃の作 た「遊匡廬山之記」を菘翁が書 の作品は中国高祖、 惠遠大師 まさに

った徳島大学名誉教授の故田中双鶴 確立した。菘翁研究の第一人者であ 本的書を体得し、伝統的な書芸術を 之から書法を学び、空海の書から日 菘翁は阿南での生活の後、高野山 「古来から古典として伝わる書の 京都などで修行。中国の王羲

> ない人物である」と評している。 基本を徹底的に研究し表現した数少 1863年菘翁は86歳で生涯を終 京都東山高台寺に永眠。

稲の新品種 権八米生みの親

区にあり、田畑には不向きな場所で 形が変わるほどに河川が氾濫する地 年に旧中野島村に生まれた。 あった。小十郎はそんな環境のなか の湿地帯で、当時は大雨が降ると地 村は那賀川と岡川にはさまれた低地 小十郎は江戸時代後期、 1 中野島 8 1 3

阿南市指定文化財 けられたが、その由来は小十郎宅の った。この新種は「権八米」と名付 ない時期に収穫できる優良品種であ 肥料の内容、冬場も土壌研究にいそ は収穫量も多く、台風にも影響され 種開発に成功した。開発された新種 小十郎は田植え後の追肥の時期や

数年の歳月を経て、待望の新

きる品種の稲 した人物である。

3品種の稲(早稲)の開発に尽力 台風などの来ない時期に収穫で

菘翁書『廬山之記』(光明寺蔵)

農会などから多くの賞状を受けて

はもとより県外にも広がり、

大日本

ている。

小十郎の子、徳蔵も父の遺志を継

多年改良を重ね、権八米は県内

社から一字取り、

名付けたといわれ

近くにあった権現を祀る丘と八幡神

2014・阿南市文化協会 阿南市の先覚者たち

☆次回(9月号)は「美馬順三」 「井上節齋」を紹介します。

問い合わせ